

戸別保証制度

来年の営農計画に不安を残す新農政

売れる農産物への転換誘導がない中、バラマキの延長となるか

生産者通信

NPO法人 米ニケーションセンター 定価 100円(送料込)

今年も残りは僅かになつてしまいました。何かと気ぜわしいのが「師走」です。毎年気に掛けながら先送りして手をつけずに越えては、自分のふがいなさで年の瀬は憂鬱になつてしまいます。今年も更に新たなマモヤが付け加わつてしまいました。民主党を中心とする新政権が2010年から導入するという「戸別所得保証制度」の中身がなかなか見えてこないからです。本来ならば、長期的な農業政策の全体像を示してほしいところですが、政策発足間もないことであり、むしろ時間をかけてじっくりと検討をして欲しいと思えます。

よつては大きく作付け計画等を変更する必要に迫られるでしょう。経済的にも技術的にも新たな対応を受け入れ可能な資質をもつておられる皆さん方であつてもそのための検討や準備にはそれなりの時間的余裕が必要であることは当然です。全国の共済加入農家数である180万戸が戸別所得保証制度対象農家になるといわれていきますから、県内農家の80%を超える兼業農家の皆さんの多くは「いずれにしても何らかの米価下落の保証は受けられそうだ」と考えておられることでしょう。更にその内の何割かの小規模・零細の皆さんは米価の変動や補償内容に開わりなく「生き甲斐」としての米作りを今までもこれからも続けられるでしょう。問題は専業や組織営農の皆さん方への対策です。

わんや日本農業の将来的展望の中で本当に必要なのでしょうか。乱暴や言い方をお許しいただけるなら「生き甲斐」は厚生労働省、山間地の農地保全は水資源の涵養や災害防止、集落機能の維持、そして景観保全等は国土交通省と環境省が所管するべきウエイトが高いのではないのでしょうか。従来の慣例や族議員と官僚による縄張りのしがらみを超えて大局的な立場での検討出来ないものでしょうか。米の需給調整は30、40%もの転作(減反)政策によつても問題の解決ができないことは、すでに明らかです。米消費拡大策もいろいろ手を尽くしていますが、残念ながら即効性はなく、将来の展望も見えてきません。問題はいくらか対策を講じて必要量を超えて米が生産され続けていることです。自由主義経済の下で他産業ではおそらくあり得ないことでしょう。一方で米以外の農作物の自給率が極めて低いことです。更に少し中期的にみると農業の担い手が高齢化し、後継者のなり手がいないことが指摘されて久しくなりました。

土壌分析の申込みについて
1、分析試料は、刈取り後の施肥前に採取、ビニール袋に入れ、密封して提出してください。
2、試料の採取方法は別図を参照し、量は野球のボール程度です。わら屑雑草が入らないよう表面の土は除いて下さい。
3、採取場所は圃場の平均的な場所を選定してください。
4、土壌分析、施肥設計のセットで料金は1,200円。(お一人様2点までとさせていただきます。)

試料の採取方法
検査したい圃場の土をスコップ等で掘り返す。土以外のもの(ワラ・雑草等)が入らないように、表面の土は除き、左イラストの部分のみ、野球のボール程度採取する。

土壌分析を実施します
土壌検査キット、ドクターソイルによる水田の分析を実施します。ご希望の方は土壌を採取の上、ご連絡ください。
重要なのは需要のある農作物(米も含めてですが)への作付け転換をどのように誘導するか。そしてそれを担う農業者、農業団体をどう育成し、経営の安定と将来展望を指し示せるかです。そのために金を使つてほしいのです。少なくとも生産費用と市場価格の差額を補てんする戸別所得保証制度ではこれまでの政策と本質は変わらず、単なる「ばらまき」としか思えない。
皆さま方が良い新年を迎えされるよう心からお祈り申し上げます。(内山常蔵記)

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol. 2

年末を控え、あわただしく過ぎていく毎日の中、認定機関への栽培履歴等の報告も終わり、来年の栽培戦略を考えている頃と思えます。さて、今回は作業所内の電気について気がついたことを少し。最近、乾燥機、籾摺機等のモーター電力がアップしていますが、これに伴い電気配電盤モーターブレーカの容量不足、電源コードの太さ不足、コンセントの接触不良によるトラブルが散見しています。

契約で機械の予定消費電力が8kwとか、最近の大型乾燥機においてファンモーターだけで2.6kw、3.7kwなどの大型化している場合も、でもなければ電源コード、差込プラグ、コンセント等の見直しはあまりされません。しかしながら乾燥機、籾摺機といえれば10、20年近く使用される場合も多い為、導入当時は良好だった差し込みプラグ、圧着端子部、コンセント内の爪の緩み等により接触不良を起こして、本来ならば三相電源の場合3本ともほぼ同じくらいの電流が流れるべきの所が1本だけあまり流れず、他の2本に高い電流が流れて、乾燥機のモミ排出時にブレーカが落ちる、籾摺時の高付加運転時等にブレーカが落ちる(特異な例として漏電ブレーカの劣化が原因というものも非常にまれにあります)が、程度なら未だしもコンセント、プラグ、コードが溶け始めた、発炎した、モーターが加熱焼損した、など非常に危険な状態に陥った事例がありました。これらの防止対策については、基本的に作業前に確認できる使用電力に合った電力契約、コードの太さの選択、およびコードの外皮のヒビ、

芯線端部の変色等の確認。コンセント、プラグの差込部のガタ、作業中においてのコンセント、プラグのプラスチック部分の発熱の有無、などについては、通線抵抗を測定し不良箇所を特定の後交換等を行う。特にコンセント差込部のプラスチックの変色変形は火災への危険が高いので発見次第早急に交換。



また、ほとんど固定式にて使用するのであればコンセント、プラグは使用しないでモーターブレーカからスイッチを通して直接機械に結線を行う、等の方法もあります。

縦型選別計算機 動力三相200V仕様を除くほとんどの方が使用されている100V仕様の機械について、たまにあるトラブルとしては、計量精度のバラつき、選別精度の低下があります。この原因として考えられるのが電圧降

下による計量部の電圧不安定、モーターの回転不足で、その具体的原因例として、ほとんどが細い芯線を使用したコードリールです。たかが消費電力、300、400W位と思えますが実例としてありました。本来100V(厳密にいえば電力会社による供給電圧。電力会社は法律 電気事業法、通商産業省第77号電気事業法施行規則により以下のとおり供給電圧を維持することが義務づけられています。標準電圧100Vでは、101Vの上り6Vを超えない値。この値は電力メーターの所までになります。)となっていないはずの電源電圧が使用機器まで来ていけばよいのですが、先程のコードリールの件では使用機器のところでは、90、91Vまで降下していたため、選別機の回転が遅く、大量の玄米流入時間回転が止まる等のトラブルとなっていました。(コードリールの使用方法の間違いの原因がほとんど。コードリールのコードは全部引き出して、使用説明書にあり、使用すると言うことが守られています)このような場合ではコンセントから直接電源を取る、またはコンセントか

からは太くて短いコードを使用する等の電圧降下を防ぐ必要があります。 電力契約について ほとんどの農家の方は、電力会社と負荷容量契約をされていると思いますが、この負荷容量契約は、作業場内機械類の全モーター電力の総和で計算されます。前記の乾燥機の場合などはカタログ上で最大同時使用電力4.5kwと記載してあれば掛ける台数の計算となり、さらに籾摺機3.7kw、モミコンテナがあればさらに1.5、2.2kwと合算すると10kwを超えている状態となります。当然使用しない月でも基本料はかかります。 この負荷容量契約に対し、主開閉器による契約があります。これは、負荷容量電力の計算と異なり、主開閉器のアンペアによる契約となります。つまり先程の総和電力10、15kw(50、75A)の場合でも実際の同時使用予定が5.0kw位であれば30Aの契約(但し、基本料金のみですが5年、10年と長い程効果大)で済み、かなりの経費節減になるのではと思います。

<p>蛇足ですが、コンセントの設置交換は電気工手法で資格が必要。もちろん変圧トランスを使用して三相200V 単相100Vは電気契約違反で送電停止の対象なので、注意です。</p> <p>以上、皆様の参考になれば幸いです。(Agri-s 記)</p>	<p>参考</p> <p>主開閉器契約算定方法</p> <p>従量電灯Bの場合</p> <p>KVA = 主開閉器の定格電流 (A) × 電圧 (V) × 1/1000</p> <p>(注) 供給電圧方式が単相3線式100又は200Vの場合の電圧は200Vとする</p> <p>低圧電力、臨時電力の場合</p> <p>KW = 主開閉器の定格電流 (A) × 電圧 (V) × 1.732 × 力率 × 1/1000</p> <p>力率は100%とする</p>
---	--